

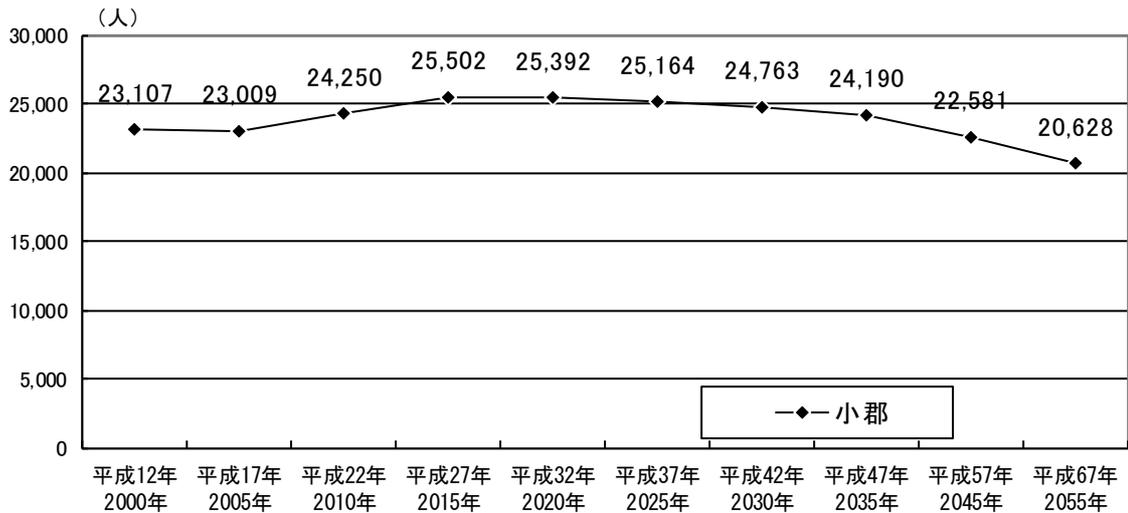
②人口の状況

小郡地域の人口は微増傾向にあり、平成27年国勢調査では25,502人となっています。

平成27年（2015年）から平成47年（2035年）の地域全体の推移は、25,502人から24,190人に推移し、20年間で1,312人の減（▲5.1%）が予測されています。

同様の間に年少人口の推移をみると、3,789人から2,734人に20年間で1,055人の減（▲27.8%）が予測されています。

■小郡地域の人口推移



<資料：国勢調査・平成32年（2020年）以降は市の独自推計>

■小郡地域の年齢別人口推移

※年齢3区分人口は年齢不詳を除く。

※年齢3区分計と地域計とは算定上生じた誤差あり。



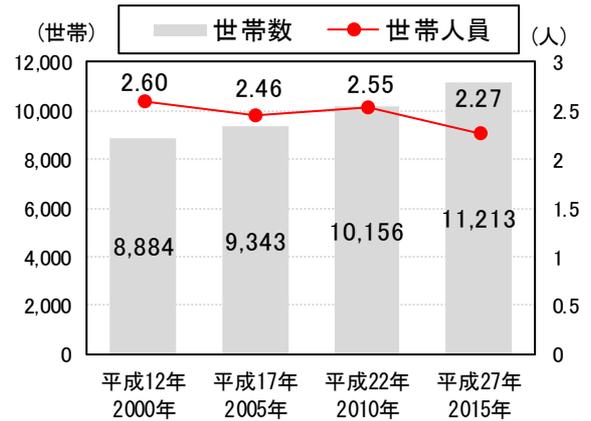
<資料：国勢調査・平成32年（2020年）以降は市の独自推計>

③世帯の状況

小郡地域の世帯数は増加傾向にあり、平成27年現在11,213世帯、世帯人員は2.27人／世帯となっています。

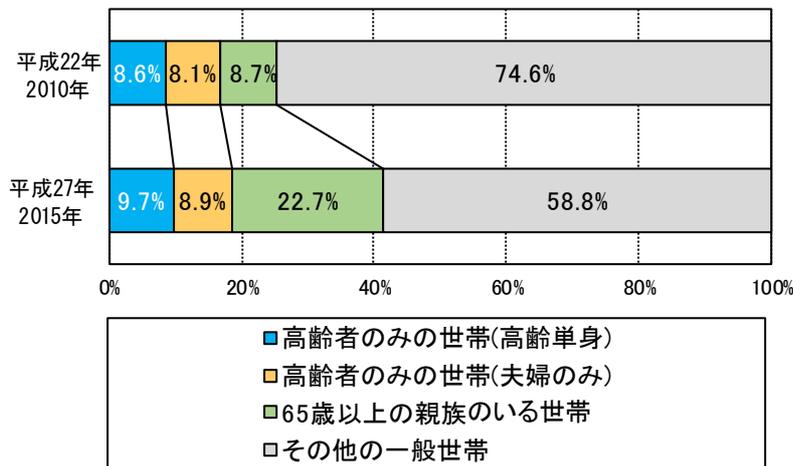
高齢者のいる世帯（単身・夫婦のみを含む）は41.3%と、他地域と比較して低い状況です。

■小郡地域の世帯の推移



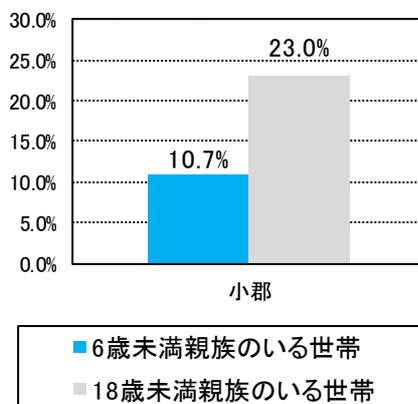
<資料：国勢調査>

■小郡地域の高齢者世帯の割合



<資料：国勢調査> ※構成比は小数点以下四捨五入値のため合計が100%にならない場合があります。

■小郡地域の子育て世帯の割合



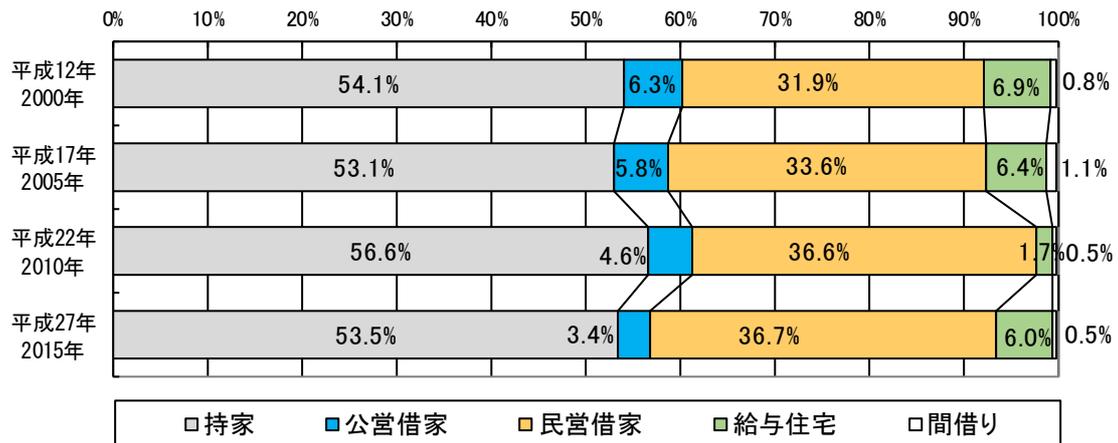
<資料：平成27年国勢調査>

④居住等の状況

小郡地域の平成12年から平成27年における住宅所有関係別世帯数は、平成27年現在、持家世帯が53.5%、民営借家世帯が36.7%を占めています。

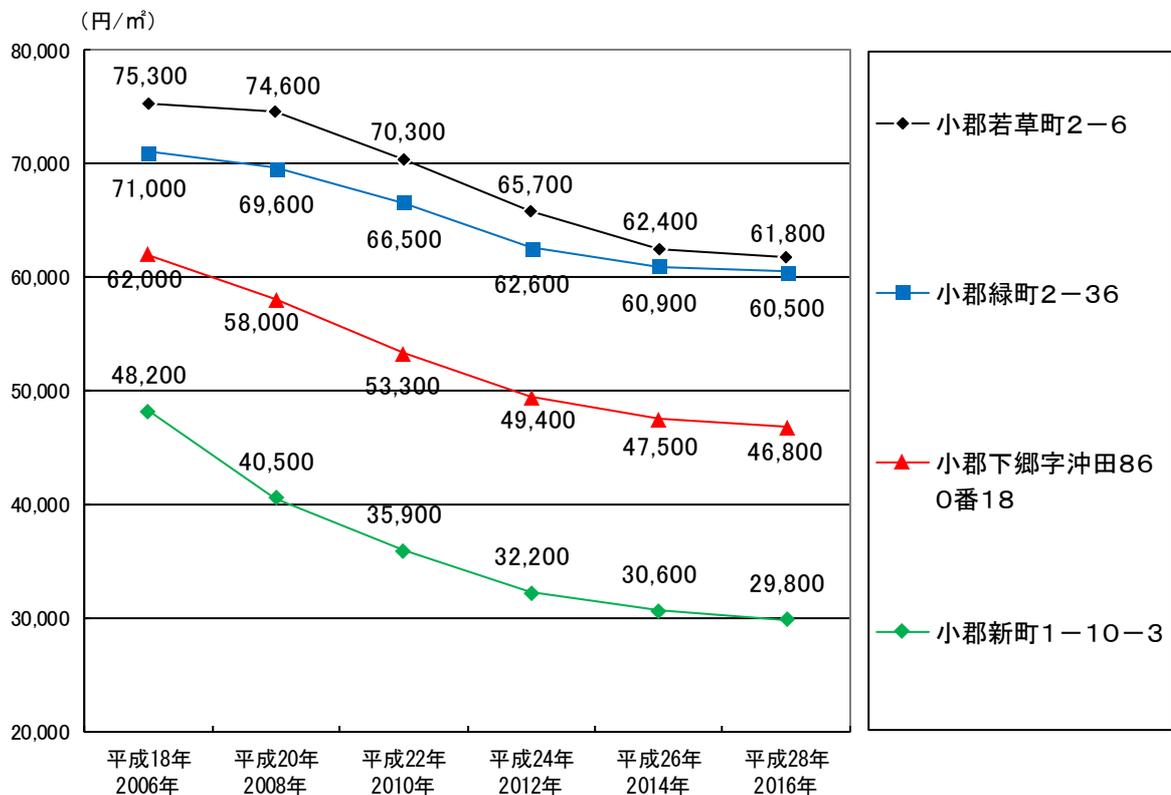
地価に関しては、中部地域に次いで地価が高い場所があり、中部周辺地域よりやや高い地価となっています。平成18年に4.8～7.5万円/㎡だったものが平成28年では3.0～6.2万円/㎡になり、下落し続けていますが、中部地域に比べて、やや緩やかで中部地域の価格に近づいています。

■小郡地域の住宅所有関係別世帯数の推移



<資料：国勢調査> ※構成比は小数点以下四捨五入値のため合計が100%にならない場合があります。

■小郡地域の地価推移



<資料：地価調査>

⑤小郡地域の住宅・住環境特性

●新山口駅南口周辺における近年の高層マンション立地

新山口駅南側の新市街地(小郡黄金町～小郡船倉町)では近年、商業施設や高齢者向けサービス付き住宅や民間分譲マンションが増加しています。



●新山口駅北側の交通施設整備に伴い、新旧市街地が混在

新山口駅北側のロータリーの整備が進み、広い道路沿いに高層マンションやホテルが立地してきました。旧市街地は道路も狭く、空き店舗が点在しています。



●新山口駅北側の旧市街地の周辺部に戸建住宅団地の立地

新山口駅北側の旧市街地周辺部では、以前より戸建住宅団地が開発されており、斜面地に戸建住宅が集積しています。

また、近年も新規に戸建住宅団地が開発され、新規団地も徐々に住宅が埋まってきています。



●新山口駅北側の旧市街地周辺部に比較的古い戸建住宅団地の立地

新山口駅北側の旧市街地周辺部では、1980年代から戸建住宅団地が開発されており、斜面地にゆとりある戸建住宅が集積しています。

また、開発用地内の更新も始まっています。



②人口の状況

南部地域の人口は、平成27年現在34,614人となっています。

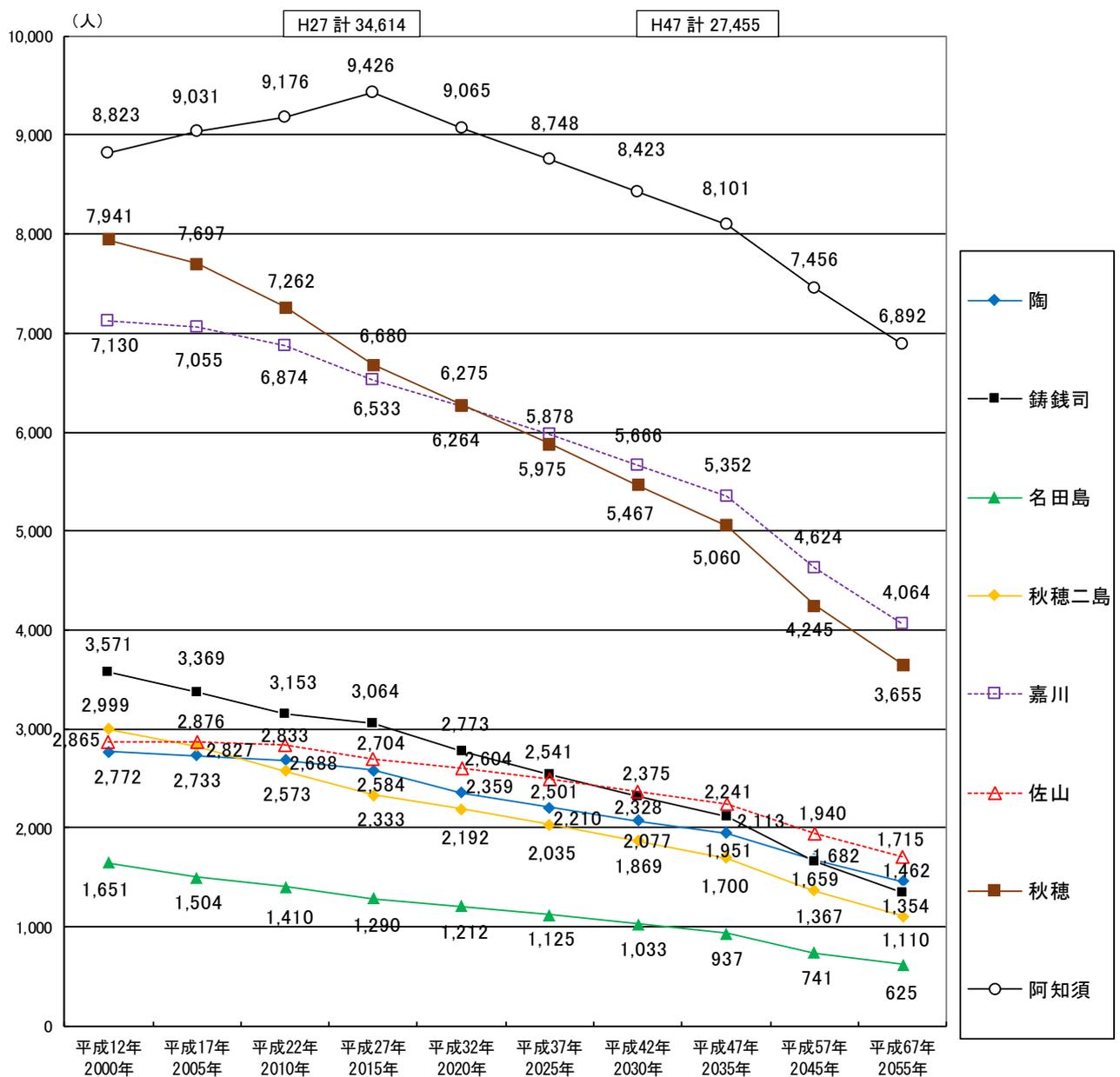
地区別人口では、阿知須地区が増加してきましたが、平成32年(2020年)以降は、減少に転じることが予測されています。

平成27年(2015年)から平成47年(2035年)では34,614人から27,455人に推移し、20年間で7,159人の減(▲20.7%)が予測されています。

同様の期間に年少人口は3,903人から2,771人に推移し、20年間で1,132人の減(▲29.0%)が予測されています。

なお、平成27年の実績値は年齢不詳が多く、年齢別計と地域計の誤差が大きくなっています。

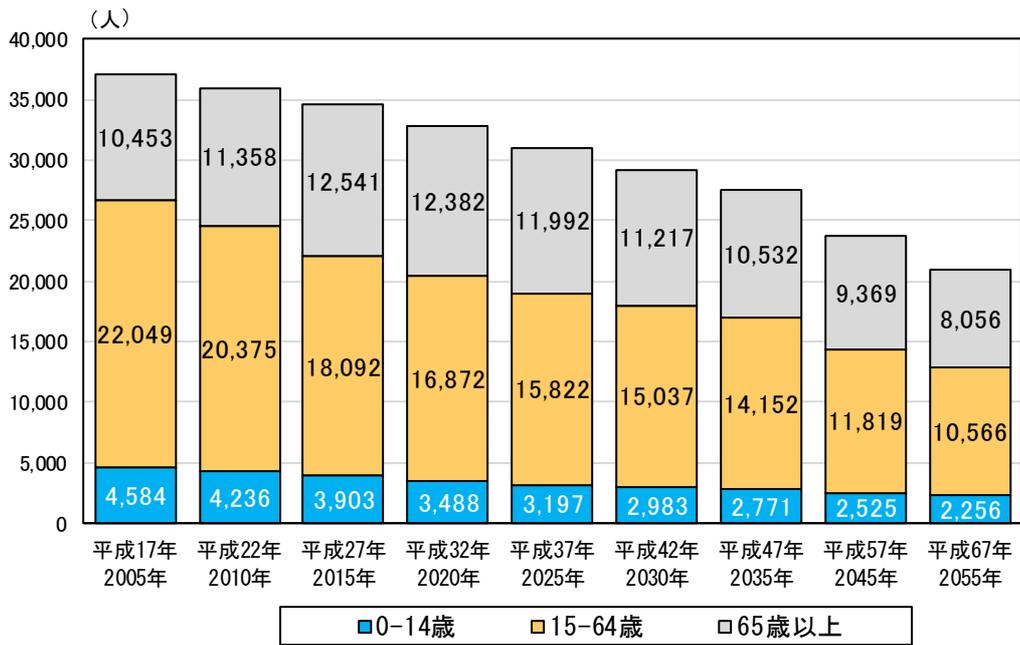
■南部地域の人口推移



<資料：国勢調査・平成32年(2020年)以降は市の独自推計>

■南部地域の年齢別人口推移

※年齢3区分人口は年齢不詳を除く。
 ※年齢3区分計と地域計とは算定上生じた誤差あり。



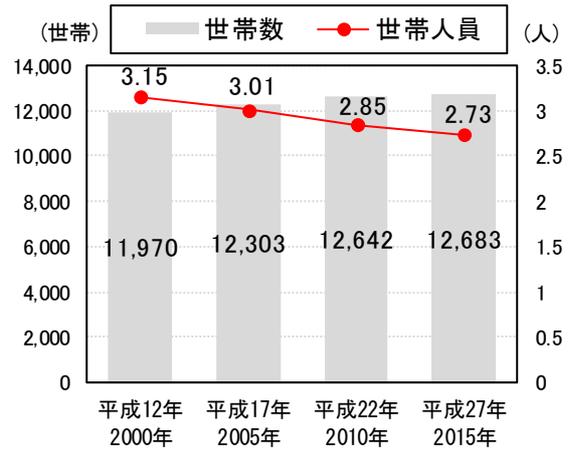
<資料：国勢調査・平成32年（2020年）以降は市の独自推計>

③世帯の状況

南部地域の世帯数は微増傾向にあり、平成27年現在12,683世帯となっています。世帯人員は減少傾向にあるものの、2.73人/世帯であり、他地域と比較して最も多くなっています。

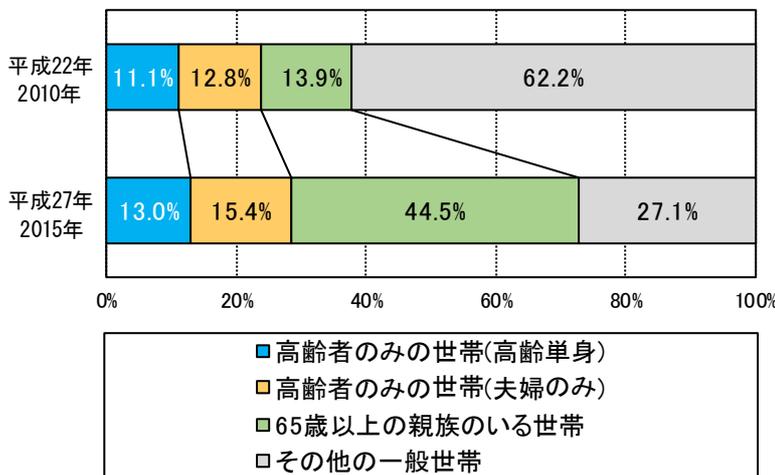
高齢者がいる世帯（単身・夫婦のみを含む）は72.9%、特に高齢単身・夫婦のみの世帯以外の65歳以上（高齢者）の親族のいる世帯が44.5%と他地域（北部中山間除く）より20%以上高くなっています。

■南部地域の世帯の推移



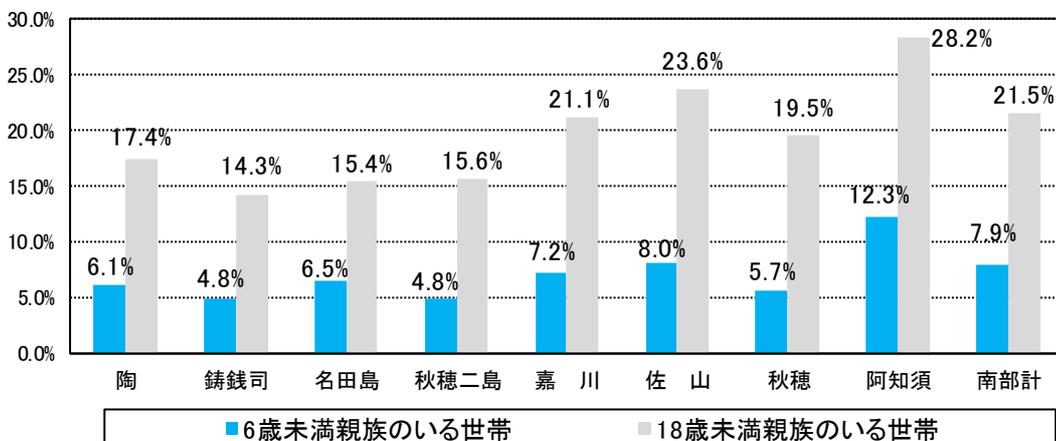
<資料：国勢調査>

■南部地域の高齢者世帯の割合



<資料：国勢調査>

■南部地域の子育て世帯の割合



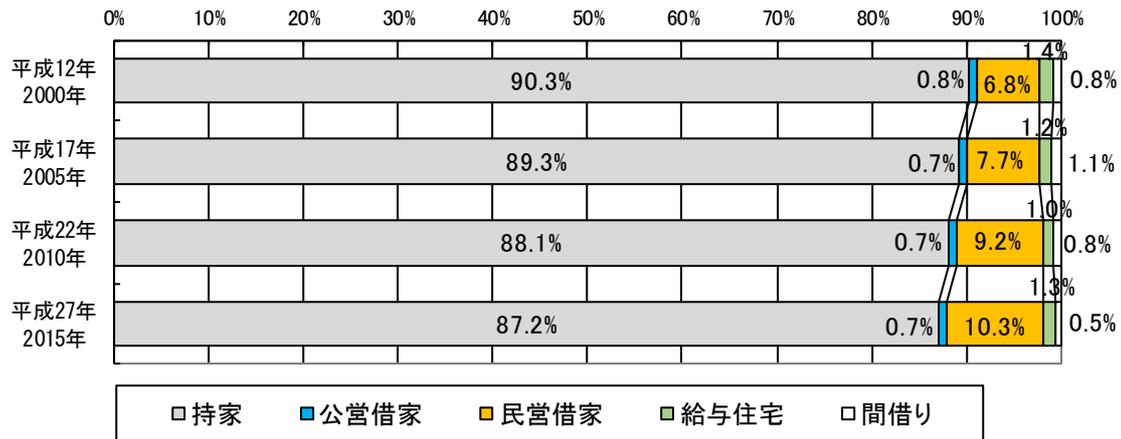
<資料：平成27年国勢調査>

④居住等の状況

南部地域の平成12年から平成27年における住宅所有関係別世帯数は、持家世帯が平成12年に90.3%占めていたものの平成27年現在87.2%に低下、民営借家世帯が平成12年に6.8%であったものの平成27年には10.3%に増加しています。

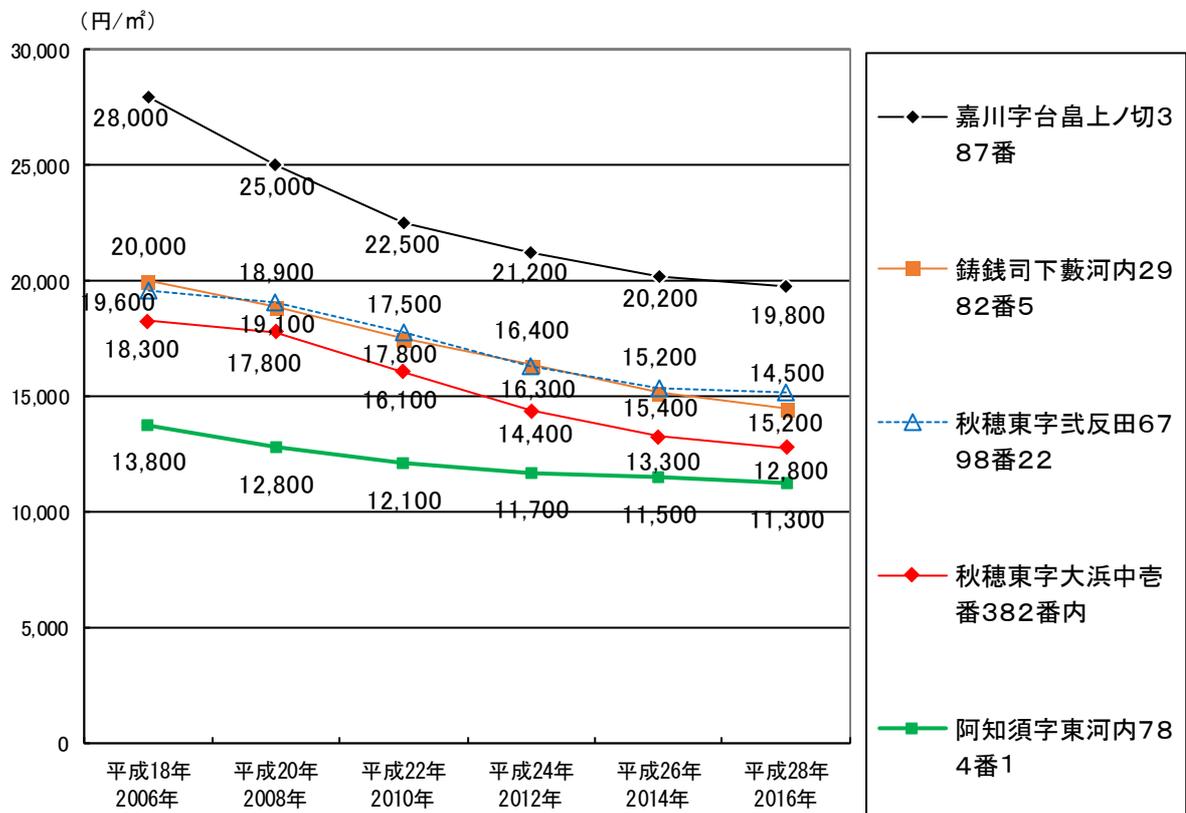
地価に関しては、平成18年に1.4~2.8万円/㎡だったものが平成28年には1.1~2.0万円/㎡と下落し続けており、特に嘉川地区の下落幅が大きくなっています。

■南部地域の住宅所有関係別世帯数の推移



<資料：国勢調査> ※構成比は小数点以下四捨五入値のため合計が100%にならない場合があります。

■南部地域の地価推移



<資料：地価調査>

⑤南部地域の住宅・住環境特性

●山陽本線嘉川駅付近と周防佐山駅付近の住宅立地

新山口駅から下関方面の、山陽本線嘉川駅周辺と、宇部線周防佐山駅周辺は、比較的新しい住宅が建ち並んでいます。



●田園地域に独立して佐山ハビテーション開発団地が立地

国道 190 号から少し西へ行った田園地帯に佐山ハビテーション(開発団地)が位置しています。

昭和から平成にかけて分譲され、まだ空いている宅地もあり、団地入り口には事業所や市営住宅も立地しています。



●阿知須地区の住宅集積地と駅前シンボルロード

阿知須地区は比較的まとまった既成住宅地となっており、山口市中心部や宇部市への通勤がしやすい位置になります。



●阿知須地区には歴史的地域と臨海部きらら博後に住宅地が立地

阿知須地区の既成市街地内には歴史的な建造物が遺る地域(いぐらの館)や臨海部には広大なきらら博記念公園と臨海道路が整備され、沿道に住宅地を形成しています。



●秋穂地区には漁港集落と新しい住宅が混在

漁港付近の既成市街地と旧町の計画に基づき定住促進のための宅地分譲による新しい住宅が混在しています。

